

■第2回有識者懇談会 主な意見と対応方針(案)

通し 番号	議事要旨より抜粋			対応方針(案)	戦略的目標の関連部分と懇談会意見を踏まえた追記案	
	カテゴリ	発言順	主な意見		戦略的目標	その他該当箇所
1	特徴の打ち出し	1	・前回初めて参加した。前回もいろんな視点で話し合ったが、「震災」は不動の地位として、 <u>だんだん資料の後ろに行くにしたがって内容がコンパクトになっていく印象</u> 。 ・東北で重要なことは、一見住みにくい場所に住み続けいかに地域を活性化していくかが大きな目標。その戦略4・5・6あたりの特徴をもうちょっと表現できないか。各項目、だいたい盛り込んでいるがここで「東北らしさ」を出しつつどこに重点目標を置くかが重要。	【本文で対応】 ・本文2章において東北圏の特徴を明らかにしたうえで、3章を記述	戦略的目標4 雪にも強くて人に優しく暮らしやすい対流促進型の地方の創生 戦略的目標5 地域の資源、特性を活かした世界に羽ばたく産業による自立的な圏域の実現 戦略的目標6 交流・連携機能の強化による世界と対流する圏域の実現	—
2	特徴の打ち出し	2	・東北圏は自然環境が厳しい中で生きている。そこで連携によって厳しいことを分散し、連携しながら地方中核的な形で発展していくことが必要。			—
3	特徴の打ち出し	3	・連携強化というが、実際、特徴的に、 <u>厳しい環境をどう強化していくかが重要。特徴がよくわからない。</u>			—
4	個別施策 (インフラ)	4	・東北らしい計画とときに選ぶ項目は、「雪」のところをどう考えていくか、ということ。 <u>条件不利で人が住み続けていくこと、そこでは雪の問題は大きい。</u> ・その中で、 <u>道路をはじめインフラについて論議して頂きたい</u> 。例えば国道48号を高規格化してはどうか。横軸を大事にして最終的には防災にもなり、冬期も人の行き来がきちんとできることが重要。シーズン中2〜3回は新幹線が止まる状況で道路をどう考えるか、人の移動の中でその辺を整理する必要がある。 ・例えば <u>冬は雪がない太平洋側で暮らすなど、マルチハビテーションを推進していくことも必要</u> か。 ・雪を軸にすると、車の話がある。車を買っても標準仕様で太平洋仕様であり、雪道仕様の4WDなどは値段が高い。お年寄りをはじめいろんな人が安価に雪道への対応を手に入れられるというような、住んでいる人目線で計画に落とし込めるものあれば入ってはどうか。	(基本的な考え方は反映済み)	戦略的目標4 雪にも強くて人に優しく暮らしやすい対流促進型の地方の創生 1. 冬に強い地域づくりの推進 (1) 冬季間の安全・安心な交通ネットワークの確保 (2) 冬季間の安全で快適な暮らしの確保 4. 「小さな拠点」の形成による暮らしやすい農山漁村づくり (2) 田園回帰を契機とした多様な世代による交流人口の拡大 ・「二地域生活・就労」の促進と「協働人口の拡大」	—
5	個別施策 (森林資源・水源涵養)	5	・森林資源・水源涵養について、環境保全の視点で書かれている(資料2、P12、3。(1)流域圏の貯留浸透・水源かん養機能保全、適切な地下水管理)が、 <u>水源地における土地取得に関する規制やケアについて、外国人が取得したり地域も開発行為をしたりという実態があることから、環境面だけでなく人がここを手に入れていく面も大事にしていくための具体的な制度</u> など、環境以外の面でも考えてほしい。	【本文(PJ)への追記を検討】 水源地における土地取得に関する規制やケアについて、外国人が取得したり地域も開発行為をしたりという実態があることから、環境面だけでなく人がここを手に入れていく面も大事にしていくための具体的な制度	戦略的目標3 恵み豊かな自然と共生する環境先進圏域の実現 3. 豊かな水環境と海域の環境保全・再生・利用 (1) 流域圏の貯留浸透・水源かん養機能保全、適切な地下水管理	—
6	コンパクト+ネットワーク	6	・この新しい広域地方計画は、震災後のさまざまな計画、「国土のグランドデザイン2050」等を経て見直しをしたということだが、コンパクト+ネットワークの <u>説明が十分でなく、新しい方向性を見出しているとは言いづらい</u> 。一歩踏み込んで何をするか、資料では複数の市町村が連携することでレベルアップした都市サービスを受けることができるとあるが、もう少し踏み込んで頂きたい。	【本文で対応】 ・東北としてのネットワークのあり方を再精査して記載	戦略的目標4 雪にも強くて人に優しく暮らしやすい対流促進型の地方の創生 2. コンパクト+ネットワークによる都市と農山漁村の共生及び連携中枢都市圏の形成 (2) 広域連携を支えるネットワークの構築	—
7	将来像・目標	7	・計画では10年後について、さまざまな観点で書かれているが、書いているだけで良いのか。 <u>どういう将来の姿を目指しているのか、目標や将来の姿が盛り込まれるとイメージしやすい</u> 。項目だけではどうしようというこまで結びつかない。実施するプロセスまでいかないと意味がない。 ・ <u>自治体の方々が能動的に前向きに対策を考えていけるように</u> 、最終的に計画策定時にはそう読み取れるように作成してほしい。	【本文で対応】 ・本文3章で記述		—
8	特徴の打ち出し	8	・みなさん仰ったのと同じく、 <u>前回は特徴が判別しやすかったなど、今回はすごく細かく、覆れてはいるが、すべてを拾い上げたがゆえに全国計画っぽい作りになっている</u> 。これでは他圏域計画などの全体に埋もれてしまう。 ・自分の専門分野で意見を述べると、 <u>防災、復興であるが、もう少しキーワードが必要</u> か。 ・7つの戦略は今のものを活かすのか、全国どこでもある感じだ。 <u>基本方針や2面型国土なども全国的に同じである。東北がこれまで経験したところを前面に出していけないか。</u>	【本文で対応】 ・本文2章において東北圏の特徴を明らかにしたうえで、3章を記述		—
9	将来像	9	・東北らしいと言えば「命の道」、「広域防災拠点」。この2点を前面に出してキャッチコピーとしてはどうか。	【本文で対応】 ・本文3章におけるサブタイトルで考慮 一検討中	戦略的目標2 災害に強い防災先進圏域の実現 1. 広域災害に備えた地域間連携の強化 (2) 太平洋側と日本海側の両国土軸の構築及びそれらの多重結節を始めとする連携強化による「命のみち」の確保 2. 災害リスクを低減する防災力の強化 (1) ハード・ソフト一体となった総合的な災害リスク低減の推進 ◆ 災害リスク低減のためのハード対策の推進 ・ 公共施設等への自家発電設備・衛星携帯電話等の配備、後方支援拠点等の広域防災拠点の整備・強化等	—
10	課題提起	10	・五所川原在住。人口減少の懸念は危機感が無い割に <u>どンドン進んでいる</u> と感じる。家業で交流人口を増やすことを考えているが、人が減ってきて空き家対策が必要になり、模索はするが移住はなかなか難しい。そこで滞在型交流を増やそうとなる。何度も来てもらい滞在日数増やすなど、経済効果を含め考えている。 ・そこにはやはり <u>インフラが大事</u> である。住んでいる人は車を使うが、外から来る人はバス、列車を基本として公共交通を使う。		戦略的目標5 地域の資源、特性を活かした世界に羽ばたく産業による自立的な圏域の実現 4. 東北圏ならではの地域資源を活かした観光交流と滞在人口の拡大 戦略的目標6 交流・連携機能の強化による世界と対流する圏域の実現 3. 圏域内外を結ぶ総合的かつスマートなネットワークの形成	—
11	個別施策 (女性の働き方)	11	・女性の働き方について、全国的に女性が働くことのできる環境づくりを言っているが、 <u>障壁が自由になるとか以外にもうちは希望シフト性をとり、本人のライフスタイルを加味している</u> 。単にシフト時間の調整でなく、ある人は平日、ある人は土日などの希望の組み合わせなどをうまくやって調整できれば良いなと思っている。		戦略的目標4 雪にも強くて人に優しく暮らしやすい対流促進型の地方の創生 5. 医療・福祉の充実と高齢者や女性の社会参画の推進 (7) 女性や若者の活躍を支える体制づくり	—
12	個別施策 (女性の働き方)	12	・日本全体で言う女性の働き方と異なり、東北の地方の場合は、 <u>調整して安心して働けるというあたりが望ましい</u> 。お互いが納得した働き方があったら良いかなと思う。	【本文への追記を検討】 ・東北らしい女性の社会参画のあり方について再精査 ・具体取組はPJへ反映	戦略的目標4 雪にも強くて人に優しく暮らしやすい対流促進型の地方の創生 5. 医療・福祉の充実と高齢者や女性の社会参画の推進 (7) 女性や若者の活躍を支える体制づくり	—
13	個別施策 (女性の働き方)	13	・満足して働くには、社会保険がついているかどうかも重要である。		戦略的目標4 雪にも強くて人に優しく暮らしやすい対流促進型の地方の創生 5. 医療・福祉の充実と高齢者や女性の社会参画の推進 (7) 女性や若者の活躍を支える体制づくり	—
14	特徴の打ち出し	14	・計画は網羅的に書かれているが、前回議事録を読んでいて座長が「東北の将来について強弱を明確にし」と言われているのに <u>対し、強弱がよくわからない</u> 。 ・明日すぐに取り掛からなければならないものと、戦略戦略を具体的にするもの、強弱や時間軸をある程度意識しながらまとめていくかはどうか。	【本文で対応】 ・本文2章において東北圏の特徴を明らかにしたうえで、3章を記述		—
15	特徴の打ち出し	15	・「東北らしさ」、「東北発」とあるが、「青春らしさ」は浮かんでこない。それは東京に倣えてきた歴史があり、東京ナイズされたものがひとつの価値であった。東北発コンパクトシティというが、コンパクトシティは果たして東北発だけか。青森市も見事に失敗している。唯一成功したのは富山。秋田にもコンパクトシティの取組があるが、同じようなことは岡山県でははるかに早くやっている。 <u>コンパクトシティがほんとに東北らしさかどうか、よくわからない</u> 。 ・東北らしさとはなにか、 <u>戦略目標4.2.(5) 都市と農山漁村の相互貢献による地域経済の活性化による攻めのスマートコンパクト化について、その通りだと思ふ。それぞれの農山村が自立的なものを作っていかなければならない、そうすることで地域資源を最大限に活用できる。自立の中にあって連携をうたっている</u> 。	【本文で対応】 ・本文2章において東北圏の特徴を明らかにしたうえで、3章を記述	戦略的目標4 雪にも強くて人に優しく暮らしやすい対流促進型の地方の創生 3. 地域の持続的な発展の核となる新しい時代のコンパクトシティを形成 (1) 東北発コンパクトシティの推進 2. コンパクト+ネットワークによる都市と農山漁村の共生及び連携中枢都市圏の形成 (5) 都市と農山漁村の相互貢献による地域経済の活性化による攻めのスマートコンパクト化	—

■第2回有識者懇談会 主な意見と対応方針(案)

通し番号	議事要旨より抜粋			対応方針(案)	戦略的目標の関連部分と懇談会意見を踏まえた追記案	
	カテゴリ	発言順No.	主な意見		戦略的目標	その他該当箇所
16	個別施策 (北海道との連携)	16	<ul style="list-style-type: none"> ・前回発言したが、日本海と太平洋、加えて青森では陸奥湾と津軽海峡はひとつの海であり、ある意味三面的なたちと考える。震災時には陸奥湾と津軽海峡がなければ物資補給もできなかったわけであり、もう少し書き込んでほしい。 ・北海道は熱心に取り組んでいる北極圏航路の問題について、今から戦略的には勉強する必要がある。 ・津軽海峡圏として取組んでいるのは、縄文遺跡群の世界遺産登録に向けた取組は、北海道の道南と秋田県を含む北東北とが一体的に実施しているものであり、物流や交流も一体的に取り組んでいる。その中で北海道新幹線は大変重要な課題であり、北海道新幹線ができると新しいツーンリズムができるので、書き込んで頂きたい。 	<p>【本文追記】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■日本海・太平洋2面活用型国土 ・震災時の陸奥湾と津軽海峡による物資補給 <p>【本文追記について保留】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北極圏航路の商用への活用については、全国的にも現在調査研究段階であり、東北圏としても検討する旨記載する。 	<p>戦略的目標5 地域の資源、特性を活かした世界に羽ばたく産業による自立的な圏域の実現</p> <p>4. 東北圏ならではの地域資源を活かした観光交流と滞在人口の拡大 (4)外国人を含む来訪者の受入環境整備・充実</p> <p>戦略的目標6 交流・連携機能の強化による世界と対流する圏域の実現</p> <p>1. 「日本海・太平洋2面活用型国土」の形成 (1)グローバル・ネットワークの構築 ◆国際海上輸送ネットワークの充実 ・震災時の陸奥湾と津軽海峡による物資補給</p>	<p>第5章 広域連携プロジェクト</p> <p>11. 「日本のふるさと・原風景」を体験できる滞在型観光圏の創出プロジェクト (東北圏への直接のアクセス機能の強化等) 青函圏における新幹線やフェリーの利活用 (歴史・伝統文化の保存・継承) 北海道・北東北を中心とした縄文遺跡群、釜石の橋野高炉跡、佐渡金銀山遺跡等の世界遺産登録に向けた取組を通じて、歴史的な景観等を保存・継承</p>
17	個別施策 (エネルギー)	17	<ul style="list-style-type: none"> ・エネルギーについて、原子力の件は必ず安全性の問題が出てくるが、3E+Sは非常に大きな役割を果たすものである。太陽光発電については儲けようとしたのがほとんどで、買取価格の値下げは当然である。青森は立地条件が良く風力発電が盛んであり、全体としてエネルギーミックスについて原子力の位置づけをどうするか検討する必要があります。 	<p>【本文で対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本文第2章「東北圏を取り巻く状況と地域特性」の中で記述 ・本文第4章「地域の資源、特性を活かした世界に羽ばたく産業による圏域の実現」の2。(1)エネルギーの安定供給の中に記載。 	<p>戦略的目標5 地域の資源、特性を活かした世界に羽ばたく産業による自立的な圏域の実現</p> <p>2. 地球に優しいエネルギーの安定供給と世界を先導するエネルギー技術開発の推進</p> <p>(1)エネルギーの安定供給 ・原子力発電について、エネルギー基本計画に基づき、再生エネルギーによる低減を図った上で、ベースロード電源として位置づけ</p>	<p>第2章 東北圏を取り巻く状況と地域特性</p> <p>第4節 東北圏発展の課題</p> <p>3. 産業の活性化、競争力ある産業の振興 ◆エネルギーの安定供給 ◆自立的かつ安定的なエネルギー供給体制の構築、大規模災害に備えた燃料供給体制の確保</p>
18	個別施策 (インフラ)	18	<ul style="list-style-type: none"> ・費用対効果の考え方で、東北のいかなるインフラも整備できない。震災時に国道45号がずたずたになった中で東北縦貫道の利用によって物流確保ができた事が明らかになったように、単なる費用対効果に陥らないように留意すること。 	(反映済み)	<p>戦略的目標2 災害に強い防災先進圏域の実現</p> <p>1. 広域災害に備えた地域間連携の強化 (2) 太平洋側と日本海側の両国土軸の構築及びそれらの多重結節を始めとする連携強化による「命のみち」の確保 ◆広域交通ネットワークの代替性・多重性の確保 ・「復興道路」及び「復興支援道路」等の整備、沿岸部の鉄道復旧に向けた取組、日本海側を含めた 道路・鉄道ネットワークの構築 ・救急救命、救援物資の輸送、避難等に資する道路ネットワークの構築 等</p>	—
19	コンパクト+ネットワーク	19	<ul style="list-style-type: none"> ・コンパクト+ネットワークは、1996年に東北未来都市研究会にて、まだ道路というインフラが重要であったことから道路を中心に位置づけたものであった。 ・これまでの道路整備は、すればするほど沿線が開発され、道路整備が中心市街地の空洞化に加担したと言ってもよい。道路整備は必要だが市街地をいかにコンパクトに集約するか、コンパクト+ネットワークとインフラ整備をどうやって噛み合わせていくかが重要。 ・小さな拠点イコール農山漁村集落、ドレヅジである。ところが農山漁村の集団移転をコンパクトシティと言っているのが間違いであり、これでは復興計画の中の農山漁村移転が全てコンパクトシティになってしまう。コンパクト+ネットワーク、小さな拠点を震災の復興過程でどう生かしていくのか、それぞれのシナリオをつなぎ合わせながら検討すべき。 	<p>【本文で対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域特性に応じた最適なコンパクト+ネットワークの基本的な考え方を記述 	<p>戦略的目標1 東日本大震災からの被災地の復興</p> <p>1. 被災地の復興に向けた新しい地域づくり (1)魅力に溢れ、安心して暮らしやすいまちづくり</p> <p>戦略的目標4 雪にも強くて人に優しく暮らしやすい対流促進型の地方の創生</p> <p>2. コンパクト+ネットワークによる都市と農山漁村の共生及 4. 「小さな拠点」の形成による暮らしやすい農山漁村づくり</p>	—
20	個別施策 (コミュニティ再生)	20	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ再生は、実は地域社会の中に差別等が存在すると無理である。ヨーロッパではソーシャルインクルージョンの考え方があがるが、たとえば市営住宅が差別を受けていないか、などが非常に重要であり、その障害になっていることを調査しながら進めることが大事である。 	<p>【本文で対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本文2章でコミュニティ再生の課題を再確認する 	<p>戦略的目標7 地域を支える人づくりと共助による住民主導の地域運営の実現</p> <p>2. 共助によるコミュニティの活性化のための絆の構築 (1)コミュニティの活性化</p>	—
21	個別施策 (防災・危機管理)	21	<ul style="list-style-type: none"> ・原発災害について、危機管理体制としてどうあるべきかが重要である。計画全てが特措法で対応しているが、これだけ災害が起きている中でなぜ10年刻みの特措法で対応するのか。また各官庁の職員が本籍にこだわりすぎており、本籍の事業を引用しようとしていることも危機管理体制の検討にあたっての問題である。 ・原子炉建屋が痛んでおり、前回より小さい地震が起きても放射線が出てくる状況である。初期期の対応の仕方等についてはどうなっているのか。震災時に初期時の情報混乱があったことから情報発信や避難行動の仕方など、東北地方で津波が起きた際の原発の危機管理の仕組みを作るべきである。 	<p>【本文で対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本文第2章「東北圏を取り巻く状況と地域特性」の中で記述 ・原発災害における危機管理体制のあり方が問われている旨の課題認識について <p>(広域災害に対する危機管理体制については反映済み)</p>	<p>戦略的目標1 東日本大震災からの被災地の復興</p> <p>3. 東京電力福島第一原子力発電所の事故による災害への対応と継続的な取組</p> <p>戦略的目標2 災害に強い防災先進圏域の実現</p> <p>1. 広域災害に備えた地域間連携の強化 (1)広域的な機能分担を踏まえた地域間連携の促進、協力体制の構築 (2)太平洋側と日本海側の両国土軸の構築及びそれらの多重結節を始めとする連携強化による「命のみち」の確保 (3)災害時の通信環境の確保、バックアップも含めた情報通信システムの構築 (4)災害時にも強いサプライチェーンの構築と円滑な物流の確保</p>	<p>第2章 東北圏を取り巻く状況と地域特性</p> <p>第4節 東北圏発展の課題</p> <p>1. 東日本大震災からの復興と災害対策の強化 ◆東京電力福島第一原子力発電所の事故による災害への対応 (福島復興再生特別措置法等を踏まえた福島の復興等)</p>
22	個別施策 (林業)	22	<ul style="list-style-type: none"> ・東北らしさ、東北祭の仕組みとして、地域循環型経済システムがある。木材資源は東北圏における比率が高いことから、単に森林産業だけでなく地域経済全体と連携するとういうことができるか検討すべき。ヨーロッパでは木造で7階建てビルを造ることができることから東北で木造の5～6階建てを建築できるとういう地域全体でのつながりを書き込みないか。 	<p>(反映済み)</p> <p>※「東北発の地域循環型経済システム」について具体PJへ反映</p>	<p>戦略的目標5 地域の資源、特性を活かした世界に羽ばたく産業による自立的な圏域の実現</p> <p>3. 東北圏の地域資源を活かした持続可能な「強い農林水産業」の創出 (2)豊富な森林資源を活かした林業の成長産業化 ◆公共建築物の木造化、木質バイオマスの利用促進等による新たな木材需要の創出 (4)他産業との融合による新たな雇用の創出 ・地域内循環による地場産業の創出</p>	—
23	計画推進	23	<ul style="list-style-type: none"> ・東北地方の7県の市町村は自治体としてどんなキャパシティビルディングを持っているのか、従来型の選択と集中の展開でよいのか、計画にうたわれている施策等について、受け止められる自治体と受け止められないという自治体が出てくるのではないかと。計画を担う主体として自治体だけでなく民間NPOなどをイメージしながら発信していかないといけない。 	<p>(反映済み)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・加えて、計画策定後の情報発信でフォロー 	<p>戦略的目標7 地域を支える人づくりと共助による住民主導の地域運営の実現</p> <p>1. 「東北につぼん」を創造する地域づくり協働体の構築 (1)地域づくり協働体の構築</p>	—
24	計画推進	24	<ul style="list-style-type: none"> ・検討会議には市町村も入っており、市町村の意見も反映できるしくみにしている。 ・国、都道府県、市町村、民間の連携プレーについて、実施段階で考慮する必要があるかと考える。 	—	—	—
25	将来像・目標	25	<ul style="list-style-type: none"> ・一つ感じたのは、東北の課題は網羅されていて、そもそもこの計画の目標がおそらく東北をより豊かにすることだと思う。そう考えたときに結局豊かにしていくためには必ず新しい価値を生み出していくということ。産業誘致にしてもゼロサムでは意味がない。東北が新たにどういった価値を今後生み出していきたいのか、いくべきなのかを明確にしていくと目標が立てやすいのではないかと。そのためには新たに産業を生み出してはどうか。今までも東北が社会的にどのような価値を生み出しているのか、なんらかの形で数値か目標値を設定して目標を立てていくのがわかりやすい。 ・大きな価値を生み出すイノベーション産業、新しい産業、その基盤としてこの計画があると非常に良い。一人が起業したら6～7人の雇用が生まれる。鶴岡でよかったのは、長期で計画を考えていることであり、産業をつくりだすのには30年から50年かかるくらい視点で誘致をし、県・市で投資しているのがかなり芽が出てきている。グローバルなマーケットを視野に入れて事業計画を立てて、どれだけ価値を提供しているのかを意識してやっている。そのような拠点がどんどん増えていけば良いと思う。 	<p>【本文で対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本文第3章の東北圏の将来像の目指すべき地域づくりの方向の中に記載。基本的考え方に記載。 	—	—

■第2回有識者懇談会 主な意見と対応方針(案)

通し 番号	議事要旨より抜粋			対応方針(案)	戦略的目標の関連部分と懇談会意見を踏まえた追記案	
	カテゴリ	発言順№	主な意見		戦略的目標	その他該当箇所
26	計画推進	26	<ul style="list-style-type: none"> 我々が恵まれているのは、山形では他のベンチャー企業が少ないことである。東京ではいくらでもいるが山形、東北でやっているところをあててもらい重点的に投資を受けることができ、よい環境と言える。 国、自治体にはできないこと、そうじゃないことをきちんと分けることが必要。民間でできることは極力民間で行う。 イノベーション産業を発展させていく上で一番大事なのは、若い世代をいかに引っ張り込んでくるかである。我が社では現在平均年齢が30歳ちょっとでちょうど子育て世代であり、1/3が地元の人。それ以外は全国あるいは外国から集まってきている。そこで課題になるのは子供ができることと核家族であること。田舎での共働きは大変で、環境整備をしなければならぬ。ところが鶴岡市にお願しても出来上がった時には子供はもう大きくなっている。それなら自分たちで施設やプログラムをつくるということで、「山形デザイン」という都市計画の開発をするベンチャー企業を地元の方々も巻き込んで立ち上げ、教育施設等を整備しホテルや不動産事業の収益の再配分もやってみよう、といった非常利な体制で取り組んでいる。地元資金を使って地元で運営し、地域による地域のための開発ベンチャーである。建築は地域の木材をつかって全部木でやろう、ということで坂茂さんが建築担当していただき、去年2月に立ち上げ着工した。こういった民間でやっていくとものすごく速く進めることができるし、制約もない。また県・市がバックアップしてくれている。土地開発公社が協力してくれたこともあり、今回の開発がなぜできるかというところ、新しい仕組みを考えてやっているからである。 民間でできることは民間で行い、道路整備など国や自治体にはできないところはそこで担当し、それぞれの区切りがわかるとわかりやすいのかなと。 	(反映済み) ※下記は新たな仕組みとして具体PJへ反映 ・ベンチャー企業参入 ・行政との役割分担 (取組事例)「山形デザイン」	戦略的目標5 地域の資源、特性を活かした世界に羽ばたく産業による自立的な圏域の実現 1. 国際競争力を持つ産業群の形成 (4) 地域産業の支援 (5) 産学官連携の推進 戦略的目標7 地域を支える人づくりと共助による住民主導の地域運営の実現 1. 「東北にっぽん」を創造する地域づくり協働体の構築 (1) 地域づくり協働体の構築	
27	個別施策 (観光交流)	27	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな立場からの意見を頂いている。 観光交流について、各都道府県で取り組んでいるが、例えば山形空港にチャーター便を誘致しようとする一歩にやるが、運行本数や頻度が少ないため定着せずコンスタントにいかない。これはどこも同じである。圏域で連携して、例えば仙台空港や新潟空港にチャーター便が定期的に来るようにして、到着後各都道府県に回るようにすれば良い。 全体でやることと各県でやることを整理し、インバウンドを国におんぶにだっことで失敗しないようにしなければならない。 	【本文への追記を検討】 「圏域で連携したインバウンドの推進」 ・地域連携による広域観光ルートの形成	戦略的目標5 地域の資源、特性を活かした世界に羽ばたく産業による自立的な圏域の実現 4. 東北圏ならではの地域資源を活かした観光交流と滞在人口の拡大 (1) 地域資源の再発見と利活用の推進及び「田舎磨き」による新たな価値観への対応 ◆食、流通、農業、文化等、様々な業界にインバウンド推進の担い手を広げた新たな取組の創出 ・ 地域連携による広域観光ルートの形成	
28	個別施策 (観光交流)	28	<ul style="list-style-type: none"> 青森では、函館空港や花巻空港をにらんでやっている。羽田や成田を使って入った人のうち、東北に東北新幹線で訪れるのは2%と聞いた。 函館と大間にはフェリーがある。インバウンドの率が2番目に高くなったのは大間だと聞いた。 青森の観光戦略は、北東北3県と北海道でやっている。南東北とさらに有機的に合併させたインバウンド戦略を組んでいる。 	【本文への追記を検討】 「圏域で連携したインバウンドの推進」 ・地域連携による広域観光ルートの形成	戦略的目標5 地域の資源、特性を活かした世界に羽ばたく産業による自立的な圏域の実現 4. 東北圏ならではの地域資源を活かした観光交流と滞在人口の拡大 (1) 地域資源の再発見と利活用の推進及び「田舎磨き」による新たな価値観への対応 ◆食、流通、農業、文化等、様々な業界にインバウンド推進の担い手を広げた新たな取組の創出 ・ 地域連携による広域観光ルートの形成	
29	個別施策 (観光交流)	29	<ul style="list-style-type: none"> 実現するためにはどういう仕組みで行くかが大事である。インバウンドは20年から30年かかって定着していくため持続可能な仕組みにしないといけない。行政主導ではなく、任意の団体が中心になってその事業遂行を行政が支援する、といった仕組みにすることで、継続期間が長くなって定着するというような形をこれから考えることが重要。 具体的にインバウンドをどう実現するか、今は東北まで来るのはきつい。仙台や新潟に来てもらいそこから東北の中をみてもらう。東北には地域の資源、これだけ環境として苦しいところに人がいて景観等を綺麗に保っていることに、東南アジアの人々はびっくりするはず。地域の人々の生き様のようなものが観光資源なのではないか。東北の地域資源、今ある資源を守って、観光客が来る仕組みを足していく。 何かひとつができる、いろんなところで波及しながら地域が元気になる。例えば木材を地域内で加工して製品まで持っていく、付加価値を高めるための地域内連携をどう風にして高めるか、考える必要がある。 	(PJ収集の参考とする) 「東北の地域資源、今ある資源を守って、観光客が来る仕組みの検討」 ・木材を地域内で加工して製品まで持っていく、付加価値を高めるための地域内連携をどう風にして高めるか	戦略的目標5 地域の資源、特性を活かした世界に羽ばたく産業による自立的な圏域の実現 3. 東北圏の地域資源を活かした持続可能な「強い農林水産業」の創出 (4) 他産業との融合による新たな雇用の創出 ・地域内循環による地場産業の創出 4. 東北圏ならではの地域資源を活かした観光交流と滞在人口の拡大 (1) 地域資源の再発見と利活用の推進及び「田舎磨き」による新たな価値観への対応 ◆地域住民等による地域資源の再発見と利活用 ◆ニューツーリズムへの対応 ◆食、流通、農業、文化等、様々な業界にインバウンド推進の担い手を広げた新たな取組の創出	
30	将来像・目標	30	<ul style="list-style-type: none"> 復興は昔に戻すのではなく、昔以上にしなければならない。補助金を使うのは新しい製品のためはだめ、というのは間違っている。復興に当たっては上のステップを目指すことが重要であり、例えばロボット学校をつくるなど、地域をいろんな形で育てていかなければならない。 原発災害を復興によって元気に戻すには、もっとよくなることを忘れないのが大切である。 	【本文で対応】 ・本文第1章の中で記載		
31	対流の使い方	31	<ul style="list-style-type: none"> 「対流」という言葉について、「対流促進」、「世界と対流する」と出てくる。連携、コミュニティという意味との区別が明確でない。今日欠席の方のご意見にもあったが、対流をきちんとつかっているか、なぜここに対流を使っているかを明確にして頂きたい。 東北発信で、世界を相手に対流を起こしさらに昇っていくというイメージか、ばらばらに動くところを民間と行政で連携し、対流を明確化して示すと力の集約が進むと考える。 対流はインパクトがある言葉であることから意見した。 イメージとして異なる文化や考え方がぶつかり合って新たな価値をつくるといったものである。 ちょっとぼんやりしているのであえて言ったところである。 	【本文で対応】 ・本文2章において東北圏の特徴を明らかにしたうえで、3章を記述 ・東北圏としての「対流」の表現を検討	戦略的目標4 雪にも強くて人に優しく暮らしやすい対流促進型の地方の創生 戦略的目標6 交流・連携機能の強化による世界と対流する圏域の実現	
32	対流の使い方	32	<ul style="list-style-type: none"> 「対流」という表現の中にある独特のニュアンスを大切にしたい。雪国では資源を東京に供給しているところを双方向型や対流型にできないか、という趣旨で受け止めた。そういう意味でのニュアンスの違いは大切に使うべきだろうか。 	【本文で対応】 ・本文2章において東北圏の特徴を明らかにしたうえで、3章を記述 ・東北圏としての「対流」の表現を検討	戦略的目標4 雪にも強くて人に優しく暮らしやすい対流促進型の地方の創生	
33	個別施策 (森林資源)	33	<ul style="list-style-type: none"> 森林資源について、関西と比較して東北、特に青森県は国有林が圧倒的な割合を占めている中で森林資源をどう使うか。 		戦略的目標5 地域の資源、特性を活かした世界に羽ばたく産業による自立的な圏域の実現 3. 東北圏の地域資源を活かした持続可能な「強い農林水産業」の創出 (2) 豊富な森林資源を活かした林業の成長産業化 ◆公共建築物の木造化、木質バイオマスの利用促進等による新たな木材需要の創出	
34	個別施策 (森林資源)	34	<ul style="list-style-type: none"> 地域のための国有林なので林野庁が柔軟に考えて対応するものである。 		戦略的目標5 地域の資源、特性を活かした世界に羽ばたく産業による自立的な圏域の実現 3. 東北圏の地域資源を活かした持続可能な「強い農林水産業」の創出 (2) 豊富な森林資源を活かした林業の成長産業化	
35	個別施策 (森林資源)	35	<ul style="list-style-type: none"> 岡山県真庭市では民有林が90%以上を占めており、循環型の取組に成功している。蒜山高原など観光をくっつけて交流人口も増えている。東北においてもそれができれば良いと思う。 	(PJ収集の参考とする)	戦略的目標4 雪にも強くて人に優しく暮らしやすい対流促進型の地方の創生 4. 「小さな拠点」の形成による暮らしやすい農山漁村づくり 戦略的目標5 地域の資源、特性を活かした世界に羽ばたく産業による自立的な圏域の実現 3. 東北圏の地域資源を活かした持続可能な「強い農林水産業」の創出 (2) 豊富な森林資源を活かした林業の成長産業化 4. 東北圏ならではの地域資源を活かした観光交流と滞在人口の拡大	
36	個別施策 (原子力災害)	36	パネル3 ◆東京電力福島第一原子力発電所の事故による災害への対応(福島復興再生特別措置法を踏まえた福島の復興) 一東京電力福島第一原子力発電所の事故による災害への対応と 放射性物質の安全管理 理由:今後30年間福島県は放射性汚染物質を中間貯蔵することになるなどの状況変化を踏まえると同時に、原子力発電事故で使えなくなった燃料を最終処分場が作られるまで保存することになります。こうした状況を考えますと追加が必要に思います。	(本文を検討する際に指摘を考慮)		第2章 東北圏を取り巻く状況と地域特性 第4節 東北圏発展の課題 1. 東日本大震災からの復興と災害対策の強化 ◆東京電力福島第一原子力発電所の事故による災害への対応と 放射性物質の安全管理 (福島復興再生特別措置法等を踏まえた福島の復興等)

■第2回有識者懇談会 主な意見と対応方針(案)

通し 番号	議事要旨より抜粋			対応方針(案)	戦略的目標の関連部分と懇談会意見を踏まえた追記案	
	カテゴリ	発言順No.	主な意見		戦略的目標	その他該当箇所
37	個別施策 (エネルギー)	37	パネル3 ◆エネルギーの安定供給(自立的かつ安定的なエネルギー供給体制の構築、大規模災害に備えた燃料供給体制の確保) →エネルギーの安定供給(自立的かつ安定的なエネルギー供給体制の構築、大規模災害に備えた燃料供給体制の確保) と分散型エネルギー供給体制の確立 理由:温暖化問題など地球環境の課題や災害等を考慮すれば、再生可能エネルギーによる地域エネルギー政策が重要になります。また、東北地域は貯存量も多いことから、積極的に取り組むべき課題と思います。	【本文を検討する際に指摘を考慮】 ・本文第2章「東北圏を取り巻く状況と地域特性」の中で記述		第2章 東北圏を取り巻く状況と地域特性 第4節 東北圏発展の課題 3. 産業の活性化、競争力ある産業の振興 ◆エネルギーの安定供給 (自立的かつ安定的なエネルギー供給体制の構築、大規模災害に備えた燃料供給体制の確保と分散型エネルギー供給体制の確立)
38	個別施策 (森林資源)	38	パネル3 ◆農林水産業の維持・強化(震災からの農林水産業の復興) →農林水産業の維持・強化(農林水産資源の積極的利用による復興と環境改善) 理由:特に林業などは、数十年サイクルで植林と伐採を計画的に実施することがCO2吸収においても重要になります。また、福島県では、森林除染の問題があり、伐採し、バイオエネルギーとして活用し、植林をして、CO2吸収の活性化を図ることが重要になっています。	(本文を検討する際に指摘を考慮)		第2章 東北圏を取り巻く状況と地域特性 第4節 東北圏発展の課題 3. 産業の活性化、競争力ある産業の振興 ◆農林水産業の維持・強化(農林水産資源の積極的利用による復興と環境改善)(震災からの農林水産産業の復興)
39	個別施策 (エネルギー)	39	パネル3 ◆再生可能エネルギー等利用推進(災害廃棄物の広域処理と再生利用および、小型家電等各種リサイクルの推進、リサイクル等再資源化にむけた取組) →再生可能エネルギー等利用推進(自然資源豊かな東北地方の特徴を生かして、再生可能エネルギーの開発・促進を行い、スマートグリッドを活用した、再生可能エネルギーのハイブリッド化による安定供給を図る) 理由:()の中身は再生可能エネルギー等利用推進ではなく、省エネ、省資源ではないでしょうか。不適切と思います。	【本文を検討する際に指摘を考慮】 ・本文第2章「東北圏を取り巻く状況と地域特性」の中で記述		第2章 東北圏を取り巻く状況と地域特性 第4節 東北圏発展の課題 5. 循環型社会の構築、豊かな自然共生社会の実現 ◆再生可能エネルギー等利用の推進 (自然資源豊かな東北地方の特徴を生かして、再生可能エネルギーの開発・促進を行い、スマートグリッドを活用した、再生可能エネルギーのハイブリッド化による安定供給を図る) (災害廃棄物の広域処理と再生利用及び小型家電等各種リサイクルの推進、リサイクル等再資源化に向けた取組)
40	対流の使い方	40	パネル5 ◆ヒト・モノ・カネ・情報の対流 →ヒト・モノ・カネ・情報は対流するものではありません。言詩の意味も進化するもので、こうした表現もあるのかもしれませんが、 対流による新たな価値の創造とは具体的に何を意味しているのか私には理解できません。わかる表現を希望 します。	【本文で対応】 ・本文2章において東北圏の特徴を明らかにしたうえで、3章を記述 ・東北圏としての「対流」の表現を検討		第3章 これから10年で東北圏が目指す姿 東北圏の将来像 ～豊かな自然の中で交流・産業拠点として発展するふるさと「東北にっぽん」～ 東日本大震災からの復興と原子力災害への対応を最優先課題とし、克服を契機として国土強靱化の模範的な圏域となり国内外をリードしていく。農林水産業の生産・流通システムの高度化や多様な資源の再構築による産業の創発を軸に、ヒト・モノ・カネ・情報の対流により新たな価値を有する東北圏域を創生。豊かな自然の中で圏民が輝く持続可能な圏域を目指す。
41	個別施策 (原子力災害)	41	パネル番号7 (1)安全安心な生活環境の実現 ◆放射性物質による汚染の防除→放射性物質による汚染の防除と管理 →特別措置法に基づく土壌等の除染、除染技術開発の推進 →特別措置法に基づく土壌等の除染、除染技術開発の推進、 放射性汚染物質の適切な管理 理由:中間貯蔵が確定し、新たな段階に入ったこと	(本文を検討する際に指摘を考慮)	戦略的目標1 東日本大震災からの被災地の復興 3. 東京電力福島第一原子力発電所の事故による災害への対応と継続的な取組 (1)安全・安心な生活環境の実現 ◆放射性物質による汚染の防除と管理 ・放射性物質汚染対処特別措置法に基づく土壌等の除染、除染技術開発の推進、 放射性汚染物質の適切な管理	
42	個別施策 (森林資源)	42	パネル11 ◆二酸化炭素吸収源としての森林の整備 →二酸化炭素吸収源としての森林の整備と活用 理由:整備、保全だけでは吸収源としての活性化は図れませんので、保全すべき森林を除き、適切な活用することが重要です。特に、植林地は適切な期間での伐採、植林を行い、バイオエネルギーの一部として活用し、化石燃料に代わるエネルギーとして利用することも必要と思います。	(本文を検討する際に指摘を考慮)	戦略的目標3 恵み豊かな自然と共生する環境先進圏域の実現 1. 地球環境保全のための低炭素社会・循環型社会の構築 (3)二酸化炭素吸収源としての森林の整備と活用	
43	将来像・目標	43	パネル14, 15, 16 戦略的目標4雪にも強くて人に優しく暮らしやすい対流促進型の地域の創生 →「雪にも強くて人に優しく暮らしやすい 魅力的な(循環型)の 地域の創生」の方がわかりやすいと思います。	【本文で対応】 ・本文2章において東北圏の特徴を明らかにしたうえで、3章を記述 ・東北圏としての「対流」の表現を検討	戦略的目標4 雪にも強くて人に優しく暮らしやすい対流促進型の地域の創生	
44	個別施策 (エネルギー)	44	パネル14 3 地域の持続的な発展の核となる新たな時代のコンパクトシティを形成 項目追加 「再生可能エネルギーによる持続循環型社会の形成」 理由:コンパクトシティでも、環境問題の対応でも、化石燃料に頼らない社会こそが、真の持続循環型社会であると考えます。	(本文を検討する際に指摘を考慮)	戦略的目標4 雪にも強くて人に優しく暮らしやすい対流促進型の地域の創生 3. 地域の持続的な発展の核となる新しい時代のコンパクトシティを形成 (6)環境問題に対応したスマートシティの実現	
45	個別施策 (エネルギー)	45	パネル17 国際競争力を持つ産業群の形成 追加項目 「再生可能エネルギー産業の振興」 環境産業の振興にも含まれるかもしれませんが、ロボット産業、再生可能エネルギー産業の振興を福島県では掲げています。また、産総研再生可能エネルギー研究所の設置に伴い、従来型のシリコン型太陽電池でも20μ程度の薄い太陽電池の製作に成功し、振興しようとしています。	(本文を検討する際に指摘を考慮)	戦略的目標5 地域の資源、特性を活かした世界に羽ばたく産業による自立的な圏域の実現 2. 地球に優しいエネルギーの安定供給と世界を先導するエネルギー技術開発の推進 ※再生可能エネルギー産業の振興について追記検討	
46	対流の使い方	46	パネル20, 21 目標6 世界と対流する圏域の実現 →世界と 行き交う 圏域の実現 ここのでも、ヒト・モノ・カネ・情報が行き交う圏域の実現ではないでしょうか。 行き交うことと対流とは意味が違う のではないのでしょうか。 対流には相反する流れがあることが前提になりますので、こうした表現が気になります。	【本文で対応】 ・本文2章において東北圏の特徴を明らかにしたうえで、3章を記述 ・東北圏としての「対流」の表現を検討	戦略的目標6 交流・連携機能の強化による世界と対流する圏域の実現	